



発行所
日刊自動車新聞社
〒105-0012
東京都港区芝大門1丁目10番11号
電話 東京(03)5777-2351代表
©日刊自動車新聞社2024

5月20日
(月曜日)

未踏をゆく

部品トップインタビュー'24

=62=



—2024年3月期決算は想定通りの数字となった。「これまで材料やエネルギーなどの価格高騰の影響などがあったが、24年3月期は価格転嫁をより一層進め、これまで認めてもらえた部分も一部認められた。このよう取り組みで狙いの数字に近付けた」

中国事業の「海外拠点は業績が2極化しているが赤字、中国もロックダウン（都市封鎖）前の数字と比べると戻ったとはいえる」という

入れが急務

—中国事業の「テコ入れにかけた具体的な取り組みは「中国はラインニング事業や合併でブレーキ事業をやつている。ラインニングは海外向けの輸出は黒字に戻した。ただ、中国の国内向けはリセッ

トボットで生産効率化

中国事業のてこ入れが急務

—海外拠点は業績が2極化しているが赤字、中国もロックダウ

ン（都市封鎖）前の数字と比

べると戻ったとはいえる」という

TBK
尾方 馨社長

—中国事業の「テコ入れにかけた具体的な取り組みは「中国はラインニング事業や合併でブレーキ事業をやつている。ラインニングは海外向けの輸出は黒字に戻した。ただ、中国の国内向けはリセッ

トボットで生産効率化

中国事業のてこ入れが急務

—海外拠点は業績が2極化しているが赤字、中国もロックダウ

ン（都市封鎖）前の数字と比

べると戻ったとはいえる」という

電動化と内燃機関の両にらみ

ショーンでクルマの生産が落ちていて良くない。合併のところは赤字だ。抛点数が良かつたのはピックアップ向うが下がっているので、この半年で増やせないのであれば、ダウンサウジングしかない。すでに中国を統括する責任者には伝えていた。一方で具体的に動き始めた取り組みもある。ラインの統廃合とトボットの導入、自動化だ。一部の工場ではトボット化に成功して、十数人单

位の人員削減につながった。中国は日本よりもトボットが安いため調達しやすく、中国以外の拠点にもトボット化をしたい」

—商用車向け製品の開発状況は

「今、顧客とともに開発に取り組んでいるのがエンジン

『eアクスル』は、従来の車両のサスペンションを変えないで使えるところが特徴の一

つだ。当社の北海道にあるテストコースで2023年夏から大型トラックに取り付けてテスト走行している。開発は順調に進んでいる

「当社は電動化と内燃機関の両方に軸足を置いている。建設機や農機、トラックは内燃機関が残ると想定しているからだ。両にらみで引き続き開発を進める」

太陽光発電ほか

材料の再利用も

（記者の目）14日に現行の中期経営計画を下方修正し

上昇が下がっているので、このアシストシステムだ。エンジンにモーターを組み込んだ構造でエンジンの出力を高められない。すでに中国を統括する例えはトランクの場合、発進のサポートに効果が出る限りを擲げた

—24年度に13年度比で二酸化炭素(CO₂)排出量15%削減を掲げた

「23年度の削減率は28・8%と目標をすでに達成した。一番大きく寄与したのが太陽光発電だ。タイとインド、日本の大企業の柱として今後の成長に期待したい。（梅田大希）

本は電気代が高いので設置の拡大を計画している。具体的には福島工場（福島県玉川村）の駐車場に太陽光パネルを取り付けるといった具合だ。再生エネルギーを活用して脱炭素化をさらに進める。それから材料の再生利用にも取り組んでいる。铸物に溶かす材料は製品を削った際に出る切粉などを回収して固め、それを溶かして使っている。今、スクラップなども高騰しているので、自社内での調達で安価に済んでいる

日刊自動車新聞社が記事利用を許諾しています。

掲載日 2024年5月20日 日刊自動車新聞 3面 ©日刊自動車新聞社 無断複製転載を禁じます。